

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第2委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成25年1月23日(水曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 37 分
出席委員	菱田 福井 井上 馬場 藤本 湊 小島 西口		
出席理事者	船越産業観光部長、山田産業観光部理事、人見ものづくり産業課長		
出席事務局	今西事務局長、三宅		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 名	議員 名

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開会<菱田委員長あいさつ>

### 2 ものづくり産業振興ビジョンについて(行政報告)

[理事者入室(産業観光部)]

<産業観光部長あいさつ>

現在、市では第4次総合計画に掲げる活力あるにぎわいのまちづくりの実現をめざし、ものづくり産業振興のための総合的で実効性のあるビジョン策定に取り組んでいる。ビジョン策定の取り組みにあたり、財団法人中小企業総合研究機構に対して支援要請を行ったところ、同機構の今年度の調査研究事業として採択を受け、同機構の研究員とともにアンケート調査やヒアリング調査を行い、検討会議を重ねてきた。本年1月、同機構から調査研究に関する提案書を市長に提出されたところである。ついては、その提案書の内容及びビジョン策定に向けた今後のスケジュール等について説明を行う。

<産業観光部理事、ものづくり産業課長、資料に基づき説明>

~ 10:50

[質疑]

<菱田委員長>

今後のビジョン策定に向けて、各委員から意見はないか。

<馬場委員>

提案書の10ページ、プロジェクトの内容について、1~2行目にかけて文章が乱れている。指摘されたい。

提案書の内容では、製造業に特化するのか、中小企業振興をめざすものか、到達点が見えてこない印象をもった。また業種により総生産量の落ち込みや伸びに大きな差があり、その背景には雇用、報酬の減少があることを今後どうするのか、その点で循環型の施策をどのように考えていくのか。

小水力発電等、長野県大町市の事例のように、エネルギー産業を地場産業にする取り組みなど、新たな課題に対応する考えは。

<産業観光部理事>

機構の立場からみて、本市を京の奥座敷として、京野菜を使った「食」を切り口

に農商工観連携の事業展開を提案された内容である。

本市の総生産額のキーとなるのは、ものづくりであると考え。農業生産加工系では、南丹市のほうが強く、本市でも朝市等により小規模な部分では大きな伸びはみられるが、生産額そのものを大きく伸ばせないと考える。ものづくり系では経営が落ち込むと本市の生産額全体が落ち込む。

よって、ものづくり産業の基軸として機械電子デバイス系をターゲットとして考えるが、ものづくり産業振興ビジョンではものづくり産業だけではなく、農商工観の振興をつなげたものにしたいという思いがあり、それを食産業振興の切り口でつなげていこうと考えるものである。

馬場委員の指摘する業種による生産額の増減に関しては、ものづくりの上手といわれる部材製造関係の事業所を中心に考えていこうと思っている。特に大手は国、府から色々な情報提供を受けているが、中小企業には中々及ばないので、何とかしたい思いである。

小水力等、再生可能エネルギー関係については、ビジョンの中で特に謳っていないが、それは市全体としての今後の方向性を見出す中で検討すべきと考える。

< 福井副委員長 >

ものづくり産業振興ビジョンの「ものづくり」は非常に範囲が広い分野であるが、要は、工業系などを対象としたもので農業などは含まないという発想であるのか。

< 産業観光部理事 >

ものづくりの基軸は工業系が中心となる。工業系の事業展開をされる中で事業者が農業や観光産業につながる製品開発を行えるよう含みをもたせながら、その中でも食を切り口にして農商工観光に広がる中身に仕上げていきたいと考えている。

< 福井副委員長 >

広い分野にわたりビジョンでカバーする考えは理解するが、亀岡市のものづくりは何をめざすということなのか、そこを明確に示してほしい。要望。

< 井上委員 >

具体的に何をするのか、独自性をだしてシンプルにまとめてほしい。また亀岡としての立地については意外に知られていない。そのアピールも必要である。また、パブコメについても集まりにくい中、できるだけ多くの声を聴取できるしくみを考えてほしい。要望。

< 藤本委員 >

第4次総合計画に基づいてのビジョン策定であるが、総合計画の実現に向けたビジョンが明確化されていない。農商工観と連携してといわれるが、その一つ一つについて具体的にどのような戦略をもつのかを明確にすべき。そのためにもっと現場のニーズを吸い上げて、本市としての必要な施策を明確に打ち出さないと、ビジョン策定そのものが目的になり、有効性に欠けたものになってしまうと危惧する。

< 産業観光部理事 >

商はにぎわいづくりの計画、農は元気農業プラン、工にはそういうものがないため、今回、工を軸足に計画しようとするものである。ただし、それぞれの事業はそれぞれに連鎖していくものであり、個々で展開しても大きな動きとなって表れてこない。それをつなげる軸が必要であることから、食の切り口であれば軸を通しやすいのではないかと考えている。また同じフロアに農商工観の各所管が配置されているが、同じことをするにもかかわらず、それぞれのセクトの視点で個々にあたっていている現状がある。それを今回のビジョンにより一つになって取り組めるように変えていきたいと考える。

< 湊委員 >

今回の説明ではしっかりこないのが率直な意見である。基本的な考えは理解するが、要するに活性化策として行政にどのようなことができるのかということが最終目標であり、本市のまちづくりのイメージをどのようにつくるのかによって、方向付けが決まってくる。

都市部に一番近い田舎であるというイメージ戦略により、まちをアピールし、その中に施策を盛り込んでいくことを基本におくべきである。また、それによる職員の意識改革も非常に大切である。

小規模事業者等にとっては、国、府、市の支援策についてわかりやすい一覧表となるものを望んでいる。そういうものをつくれるのかできないのか確認したい。観光、商業を含めて、旅行会社等に企画書を提案して本市に目を向けてもらえるようなPRもしてもらいたい。

< 産業観光部理事 >

京都府の制度、さらに国の制度を把握することは困難である。企業誘致の場合は明確であるが、個々の企業について、例えばブース出展の支援において、京都府との比較対照できるものを今回検討している。

まちのイメージとして、観光のPRだけではなく、まちとしてのPRを行っている。亀岡としてのまちの存在をあまり知られていないのが現状である。

< 湊委員 >

先日、スタジアムに係るテレビ報道で、城陽の人々のあんな遠いところに行けないといった声、駅北の田んぼを映し、アユモドキの生息で難しいなど、とんでもない内容であった。あのテレビを見た人は、亀岡は何というところかというイメージを持たれたと感じた。そういうイメージを払拭するイメージづくりを必死に行うべきである。

< 福井副委員長 >

財団法人中小企業総合研究機構について、資料には、平成23年度は塩尻市の産業振興ビジョンの策定に調査研究協力したとあるが、それだけに関わる機関であるのか。

< ものづくり産業課長 >

本市において、調査研究により課題を明らかにしてもらい、取り組み方策等の提案をいただいたとおりであり、来年度以降については、具体的な関わりはなくなるのが実際のところである。国の組織でもあるので、今回、大阪方面の各機関等にも一緒に訪問し、亀岡の情報を投げかけながら関西での動きを把握することもできた。なお、機構での事業であるので、委託料等は発生していない。

< 産業観光部長 >

資料に機構の組織図が掲載されており、その中の地域産業支援部の所管事務として、地域産業の発展を促進する自治体に対する支援事業の一つとして、取り組まれたことである。やはり中央の視点ではあるが、実態把握に精力的に努め、提案してもらったと理解している。

< 西口委員 >

基本的にわかりやすさ、亀岡らしさをだした特色あるビジョンの策定を願う。このビジョンの策定には目標数値的なものはないのかと感じたがそのような到達点の設定はあるのか。

< 産業観光部理事 >

数値目標としては総合計画で掲げる卸売業・小売業の年間商品販売額年間1200

億円以上という大きな目標がある。昨今、市内事業所の経営状況が厳しい中、現在稼働中の事業所が倒産せず元気になればありがたいと思っている。企業立地については、現実的に2箇所を整備がはじまっている中でもあるので、体制を強化したいと考えている。

< 藤本委員 >

国のほうでは、中小企業の支援を全面に打ち出してきている中、京都府の支援を含め、新しい支援制度に係る情報を事業現場では一番求めている。観光、農業とも連動しているので、次回、るるぶを制作する際には、そういった連携面も視野に入るとともに、それとは別にそれぞれの制度紹介等のパンフレットが必要である。現状では現場のニーズの把握に欠け総論的にまとめられる感がある。一番必要なのは具体性のある施策であるというのが、現場のニーズであると考えている。ビジョンを否定しているわけではない。

< 菱田委員長 >

今回は、ビジョン策定に向けての提案書の説明を受けたが、今後、パブコメの予定もある中、その経過等の報告を受け、議会としても意見や提案を述べていきたいと思う。よろしく願います。

[理事者退室]

~ 11 : 26

### 3 その他

< 菱田委員長 >

次回の月例開催について、ものづくり産業振興ビジョンに係り、パブコメの時期に合わせ、2月下旬頃に再度、行政報告を受けたいと考える。また、前回の意見でもあった観光協会との意見交換も同時に行いたいと考える。2月20日(水)10時から委員会を開催したいがどうか。 < 了 >

< 藤本委員 >

景観条例のその後の経過についてはどうなっているのか。

< 菱田委員長 >

昨年、亀岡祭の際、都市計画課長とともに紺屋町の鉾に入り、色々と話をさせてもらった経過があるのが一つと、その他の地域の中でも景観条例について水面下での動きがある。先日、旧亀山城惣構が市の指定文化財に指定されたことをきっかけに、地域ではそれを取り巻く環境として景観を守ろうということへの波及も期待される動きもある。決して停まっているという認識はもっていない。引き続き支援願いたい。

< 事務局 >

観光協会との意見交換について、参考人として委員会への出席を要請する必要について協議を。

< 菱田委員長 >

観光協会を参考人として委員会への出席を要請し、説明を受けたいと考えるが異議はないか。

< 了 >

< 湊委員 >

意見交換の目的ではなく、テーマが必要ではないのか。

< 菱田委員長 >

基本的には観光協会の現在の取り組みについて説明を受け、意見交換を行いたいと

考える。

<西口委員長>

この意見交換については、元々観光協会から働きかけがあつてのことか、こちらから要請するものか。

<菱田委員長>

前回の委員会で委員から提案のあつたことであるので、こちらから行うものである。

<藤本委員>

大規模スポーツ施設に係る観光戦略の観点からの意見交換をすべきと考えるが。

<菱田委員長>

それについては、観光協会で意見をもっていることが前提となる。現況では意見は集約されていない。

<馬場委員>

大規模スポーツ施設は京都府が建設するものであり、議会で議決されたものではない。

<菱田委員長>

今後の展望として意見があれば何うこととし、意見交換の内容については、正副委員長と調整し、整理させてもらいたい。

<福井副委員長>

観光協会に出席要請する対象者は。

<菱田委員長>

基本的に会長に要請するが、おそらく事務局長の出席になると思われる。その点も正副委員長に一任願いたい。 <了>

～ 11 : 37